

2024年度

授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	上根 英嗣				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年	後期

【授業の目的・ねらい】

運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に把握し、臨床に必要な検査や訓練方法および発話補助手段について理解できる。

【実務者経験】

言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。

【授業全体の内容の概要】

テキストや音声、動画を用いて、運動障害性構音障害および他の発話障害との鑑別について総合的に理解し、臨床に必要な評価や訓練方法および発話補助手段について学び、評価から訓練立案に必要な知識と技術を身につける。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

運動障害性構音障害を総合的に理解し、臨床場面での適切な評価や訓練ができるようになる。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	運動障害性構音障害の評価（臨床の流れ）を理解できる。	テキスト
2	失語症・発語失行との鑑別診断ができる。	テキスト
3	標準ディサーチア検査の概要が理解できる。	テキスト
4	標準ディサーチア検査の一般的情報収集・発話の検査ができる。	テキスト
5	標準ディサーチア検査の発声発語器官検査（呼吸機能、発声機能、鼻咽腔機能）ができる。	テキスト
6	標準ディサーチア検査の発声発語器官検査（口腔構音機能）ができる。	テキスト
7	標準ディサーチア検査のまとめと結果の解釈、ICFに基づいた評価ができる。	テキスト
8	呼吸機能へのアプローチができる。	テキスト
9	発声機能へのアプローチができる。	テキスト
10	鼻咽腔閉鎖機能へのアプローチができる。	テキスト
11	口腔構音機能へのアプローチができる。	テキスト
12	発話速度の調整法ができる。	テキスト
13	拡大・代替コミュニケーションのアプローチができる。	テキスト
14	事例検討	テキスト
15	まとめ	テキスト

【使用教科書・教材・參考書】

【使用教科書・教材・参考書】
ディサーチリア臨床標準テキスト 第2版

【準備學習・時間外學習】

【早讀字音・時間外字音】あらかじめテキストを熟読してから授業に臨んでください。また、授業後の復習も欠かさずに行ってください。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。
試験は定期試験のみ実施とし、
60点以上の場合は科目を認定する